

## 仮想アース Crystal E の導入(38)(HP 収載)

### －USB 端子(1)－

#### 1. 始めに

前報(37)までに、仮想アースの接続は、筐体 GRD、RCA 入出力端子、LAN 端子について実施してきました。今回は USB 端子への仮想アースの接続について検討します。

#### 2. 仮想アース試聴方法

USB ポートのある機器で空き端子のあるものは、PC と USB ハブです。今回は PC の USB 端子への仮想アースの接続を実施します。

USB 端子への仮想アースの接続のために、USB A 端子接続用アースケーブル Clone2UA を新たに購入しました。

この Clone2UA を使用して PC に Crystal E を接続します。



Crystal E を Brooklyn DAC+から外しますので、ここには Crystal EpY を補充します。

音源としては、PC による BPODCH と Spotify のストリーミング再生および PC によるファイル音源の再生を行ってみます。

#### 3. 仮想アース試聴結果

BPODCH の再生は、ロレンツォ・ヴィオッティ指揮ベルリンフィルのマーラーの 3 番とエフゲニー・キーシンのピアノとマリス・ヤンソンス指揮ベルリンフィルのリストのピアノ協奏曲 1 番です。

BPODCH のようなネットからのストリーミング再生の場合、PC の上流のスイッチングハブには自作の仮想アースを、また下流の Sonica DAC には Crystal Ep をセッ

トしています。

マーラーの3番では、すでに上流と下流に仮想アースがセットされていますので、十分に大編成のオーケストラのライブ収録の雰囲気は出ていますが、PCのUSB端子にCrystal Eを接続しますと、そのようなライブ感が一層助長されます。すなわち、個々の楽器の質感が向上し、オーケストラ全体の音の分離と協和が向上します。

リストのピアノ協奏曲1番では、PCのUSB端子にCrystal Eを接続しますと、この場合もマーラーの3番と同様、ライブ感が一層助長されます。すなわち、オーケストラ全体の音の分離と協和が向上し、個々の楽器の質感が向上しますが、取り分けスタンウェイの打鍵の表現の精度や低音部の大ホールへの余韻が明瞭になります。

Spotifyの再生は、家喜美子のバッハのGoldberg変奏曲と神尾真由子のバッハの無伴奏パルティータをストリーミング再生しました。この場合もすでに上流と下流に仮想アースがセットされています。

Spotifyの再生で、PCのUSB端子にCrystal Eを接続しますと、Goldberg変奏曲ではチェンバロのピック感の精度が上がりますし、無伴奏パルティータでは、ボウイングの様子リアル感が向上しますが、その効果の程度はさほど顕著ではありません。

PCのTEAC Hi-Res Editorによるハイレゾファイル音源再生では、菊池洋子のバッハのGoldberg変奏曲のLive Extremeによる配信からの5.6MHzDSD録音と小川理子の78回転盤JazzのTohrensTD124の再生からの5.6MHzDSD録音を再生してみました。

これらはPCのUSB端子にCrystal Eを接続しますと、ハイレゾらしさが一段と向上します。菊池洋子はこれまでにないほどライブ感が出ていますし、小川理子は、78回転盤JazzのTohrensTD124の生再生に肉薄しています。クラシックとジャズのピアノですが、アタック感などが眼前で演奏しているかのようにリアルです。こういった録音は、録音自体が元の音源に比べて劣化するものと思っていきましたが、再生側の問題もあることが分かりました。

#### 4. まとめ

PCによるBPODCHの再生、Spotifyの再生およびファイル音源の再生においてPCにCrystal Eを接続する効果を認めましたが、効果の程度は、音源や再生ルートに依存するようです。

以上